

「版画にみる近代事業の風景」展

～渋沢栄一の足跡をたどる～

会期:2020年1月11日(土)～3月22日(日)

会場:< GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、2019年度第四回企画展として、2020年1月11日(土)から3月22日(日)までの期間、『「版画にみる近代事業の風景」～渋沢栄一の足跡をたどる～』展を開催します。

天保11年(1840)に現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれた渋沢栄一は、子供のころより勉学と商才に優れ家業を手伝う一方、青年期には尊王攘夷思想に傾斜しますが、幕末動乱のなか一橋慶喜の家臣となりました。若くしてヨーロッパを訪れ、その文化を学ぶ機会を得ました。幕府崩壊後に帰国して一旦は明治政府に仕えますが、その後は民間企業の育成と社会事業、民間外交に力を尽くしました。

設立にかかわった企業は500社を超えるといわれ、100年以上の歴史を刻み、現在も活動する企業が数多くあります。

今回は渋沢栄一が手がけた近代事業の姿が描かれた版画を通じて、当時の人々にどのように映り伝わっていったのかを紹介致します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊

〈渋沢栄一氏 略歴〉

1840年(天保11)2月13日

武蔵国榛沢郡血洗島村(現在の埼玉県深谷市血洗島)に父市郎右衛門と母えいとの間にもまれる。

1856年(安政3)

御用金の件で父の名代として岡部落陣屋へ出頭。

1863年(文久3) 9月

高崎城の乗っ取り、横浜外国人居留地の焼き討ちを計画。

1864年(元治元) 2月

平岡円四郎の推挙により一橋家へ仕官する。

1867年(慶応3) 1月

徳川慶喜の命により、実弟昭武のパリ万博の使節団の一員として渡欧する。

1868年(明治元) 11月 明治維新により急遽帰国。

1869年(明治2) 1月 静岡藩商法会所頭取を務める。

1869年(明治2) 11月

大隈重信の説得により民部省租税正に就き、改正掛を設置する。

1873年(明治6) 5月 政府役職を辞任。

6月 第一国立銀行総監査役に就任。

1875年(明治8) 12月

東京会議所会頭となる。以後500社以上の企業の設立にかかわる。

1879年(明治12) 8月

東京府養育院院長に任命される。

以降亡くなるまでその任を務める。

1888年(明治21) 12月 兜町へ本宅を移す。

1900年(明治33) 5月 男爵を授けられる。

1901年(明治34) 5月 王子飛鳥山へ本宅を移す。

1909年(明治42) 6月

数え年で古希を期に多くの企業の役職を退く。

1920年(大正9) 9月 子爵を授けられる。

1924年(大正13) 3月

日仏会館理事長に就任する。

1927年(昭和2) 2月

日本国際児童親善会会長に就任。

日米人形交換事業に尽力する。

1931年(昭和6) 11月11日

午前1時50分永眠。享年91歳。

※年表の日付は1872年(明治5)12月2日までは旧暦

大蔵省時代 改正掛

ヨーロッパより帰国した渋沢栄一(以後栄一氏と記す)は、明治2年(1869)に静岡の徳川慶喜の下で、ヨーロッパでの見聞を活かし株式組織である「静岡商法会所」を設立運営して実績を上げました。

同年11月には大隈重信の強い要請により、民部省租税司のトップとなります。

その後栄一氏の進言により、民部省と大蔵省の仕事の全般を対象に調査と立案を担当する「改正掛」(かいせいがかり)が設けられ、その長を兼ねることになりました。

その役割は度量衡の基準の確立、養蚕に関連する事項や郵便制度、貨幣制度の整備、暦の改正など、多岐にわたりました。

民部省と大蔵省が統合されると大蔵省紙幣寮紙幣頭を務めるほか、日本に株式会社を育成するため、会社設立の手引きとして「立会略則」を大蔵省より刊行するなど力を尽くしました。

【郵便】

明治3年5月

駅逋権正前島密東海道試験郵便の計画を改正掛に諮る。栄一改正掛長として其議に与る。

『渋沢栄一伝記資料』第02巻 p.396-p.400より

栄一氏は明治3年(1870)3月に静岡より前島密を大蔵省へ推薦し呼び寄せました。前島密は同年5月には東海道での郵便計画を栄一氏へ進言し、明治4年(1871)3月1日(新暦4月20日)に、東京大阪間で官営の郵便事業が始まりました。翌年には全国へ郵便ネットワークが広がり、明治6年(1873)には郵便料金の全国均一制度が実施され郵便ハガキの発行が始まりました。現在「日本郵便の父」といわれ、普通切手で唯一人物肖像画として採用されている前島密ですが、明治政府に採用されるきっかけは栄一氏の尽力によります。

1) 東京府下名所尽 四日市駅通寮
歌川広重(三代) 明治7年(1874)

【富岡製糸場】

明治3年閏10月7日
是の春政府に製糸改良の議あり。大蔵少輔伊藤博文及び栄一命を奉じて在留仏人テブスケ等と議し、同国人ブリユナを雇傭して地を上州富岡に相し製糸場を設けんとす。
是日民部大輔大木喬任等とブリユナとの間に条約締結せられ、同時に栄一、民部権大丞玉乃世履等と共に製糸場事務主任を仰付けらる。

『渋沢栄一伝記資料』第02巻 p.490-p.526より

開国直後より外国から買い手がついた代表的な日本の商品は、茶と生糸でした。政府は生糸の品質と生産向上を目指し、栄一氏が設立主任となって官営の模範工場として富岡製糸場が建設されました。
明治5年(1872)に完成した木骨レンガ造りの建物をはじめとした施設では、フランス人ポール・ブリユナ指導の下、働く工女たちが全国より集められました。栄一の幼いころの学問の師である尾高惇忠(おだかじゅんちゅう)は、明治9年(1876)まで工場運営に尽力し、娘の勇(ゆう)は志願してその最初の工女となりました。錦絵に描かれた建物は現存し、平成26年(2014)に世界文化遺産、そして国宝に指定されています。

2) 上州富岡製糸場
歌川国輝(二代) 明治5年(1872)



3) 上州富岡製糸場之図
歌川国輝(二代) 明治5年頃(1872)頃

【紙幣寮】

4) 常磐橋内紙幣寮之図
小林清親 明治13年(1880)

5) 東京名所 常磐橋内紙幣寮新建之図
歌川広重(三代) 明治10年(1877)

6) 東京名勝之内 常磐橋紙幣局新建出来之図
歌川広重(三代) 明治10年(1877)

【租税寮】

7) 筋違万代橋租税寮之図
歌川広重(三代) 明治8年(1875)

8) 古今東京名所 元筋違萬代ばし
歌川広重(三代) 明治16年(1883)

明治6年5月14日 大蔵省をやめる。

明治6年5月4日
是より先、各省経費増額の要求益々烈し。大蔵大輔井上馨極力論争したれども、遂に拒む能はず。乃ち五月三日に至り辞意を決し、吏僚を集めて之を告ぐ。栄一之に同じ、是日辞表を奉呈す。十四日願に依り出仕を免ぜらる。

『渋沢栄一伝記資料』第03巻 p.719-p.741より

井上馨や栄一氏は政府の安定した税収入の制度を整備しているなか、明治5年(1872)11月に文部・司法の両省からを始め、各省より予算増額の要求があり、両氏は抵抗するものの対抗しきれず明治6年(1873)5月3日に辞表を提出しました。また両氏は政府の財政状況に関する「建言書」を提出し、政府財政の歳出超過を新聞紙上へも発表しました。両氏の後を引き継いだ大隈重信は、同年の政府予算収支について精査した結果黒字であることを、新聞や府県を通じて発表して沈静化を図りました。

【第一国立銀行】

9) 東京海運橋兜町為換座五階造り図
歌川広重(三代) 明治6年(1873)



10) 東京海運橋第一国立銀行之全図
並ニ近円の市中一覽の図
歌川芳虎 明治9年(1876)

11) 海運橋
小林清親 年代不明

12) 海運橋第一銀行
勝山英三郎 明治24年(1891)

【株式取引所】

13) 東京名所 兜町米商會所 鎧稲荷祭礼之真図
歌川広重(三代) 明治11年(1878)

【抄紙会社】

明治5年11月
是月三野村利助・古河市兵衛の名を以て抄紙会社設立願書を大蔵省に提出す。翌六年二月十二日許可せらる。抄紙会社と称し、資本金十五万円と定む。尋いで三月二十三日栄一立会の下に、機械買入につき在横浜亜米一商会と正式の契約を結ぶ。

『渋沢栄一伝記資料』第11巻 p.8-p.13より

栄一氏は大蔵省時代より製紙事業を官が関わり設立することを提案します。結果として会社組織として抄紙会社を栄一氏が調整を取り、明治6年(1873)2月に設立しました。翌年には頭取代となり、資材やお雇い外国人の手配、工場立地場所の選定などその仕事は

多岐にわたりました。石神井川の水が利用できる飛鳥山下の王子をその地を選ぶと、技術的な困難を乗り越え、明治8年(1875)12月に開業式を催して洋紙製造事業に乗り出しました。

現在の王子ホールディング株式会社になります。

14)東京名所 飛鳥山

渡辺忠久

明治23年(1890)



15)東京大日本名勝之内 自鳥飛山眺王子製紙会社

勝山英三郎

明治24年(1891)

16)新近郊八景 王子 あすか山より製紙会社をみる

織田一磨

昭和7年(1932)

17)王子製紙会社略図

歌川房種

明治10年(1877)

【東京瓦斯】

明治7年11月

是月栄一、東京会議所共有金取締に推薦され、尋いで八年十二月二十七日会頭並に行務科頭取に選ばれる。是より先、同会議所は東京市内の瓦斯灯建設に従事す。栄一之に与る。

『渋沢栄一伝記資料』第12巻 p.280-p.312より

東京のガス事業の始まりは、江戸時代より町会で積み立ててきた「七分積金」が原資となっています。その積立金を管理していた東京会議所が当初運営を行っていましたが、明治7年(1874)10月に栄一氏は東京会議所に関わり、翌年には会頭となり運営を担いました。東京府瓦斯局と改変した後も局長として運営を引き継ぎますが、明治14年(1881)に赤字続きの瓦斯局を民間に払い下げる気運が高まりました。

栄一氏は経営を健全化した後に、適正な金額で払い下げることを提案

して業績の向上に努めました。目処の立った明治18年(1885)に栄一氏は出資を募り、適正な価格で民間に払い下げを受け誕生したのが東京瓦斯会社で、引き続き栄一氏は先頭に立ち事業を切り盛りしました。現在の東京ガス株式会社になります。

18)東京名勝図会 金杉橋より芝浦の鉄道

歌川広重(三代)

年代不明

19)新近郊八景 品川 秋のはぜ釣り

織田一磨

昭和7年(1932)

【東京馬車鉄道】

明治13年12月28日

是より先、谷元道之・種田誠一等東京市街に馬車



鉄道を敷設せんことを計画し、是日東京馬車鉄道会社創立せらる。栄一、谷元・種田等との関係より其勧めに応じて株主たり。且つ要務の協議に与かりしも後ち事業盛大を致すに至りて止む。

『渋沢栄一伝記資料』第9巻 p.378-p.396より

明治13年(1880)に種田誠一他三人により設立された東京馬車鉄道会社は、新橋から日本橋、上野より浅草を繋ぐ鉄道馬車の路線より、東京の繁華街を結ぶ重要な役割を担い、栄一氏は株主に名を連ねます。電気鉄道が実用化されると、明治33年(1900)に動力を電気に変更して社名も東京電車鉄道株式会社に変更します。

後に登場した東京の電軌鉄道事業者との合併を栄一氏は斡旋し、紆余曲折を経て明治39年(1906)に東京鉄道会社となった後、公営化されます。

現在の東京都交通局になります。



20)東京名所之内 銀座通煉瓦造鉄道馬車往復図

歌川広重(三代)

明治15年(1882)

【日本鉄道】

21)東京名所 上野停車場之図

井上安治

明治22年(1889)

22)東京銘勝会 上野鉄道館

歌川国利

明治19年(1886)

【清水組】

23)東京築地ホテル館表掛之図

歌川芳虎

明治3年(1870)

24)駿河町雪

小林清親

年代不明

【帝国ホテル】

明治20年11月18日

是より先栄一外人の宿泊に充つる等の目的を以て有限責任東京ホテルの創立に力め、是日發起人総代として大倉喜八郎と共に連署して会社創立願を東京府知事に提出す。

『渋沢栄一伝記資料』第14巻 p.377-p.380より

明治20年(1887)に大倉喜八郎、益田孝ともに栄一氏は、外国人宿泊施設として東京府知事に会社設立を願い出て、明治23年(1890)に帝国ホテルを鹿鳴館の北側に開業しました。

建物は渡辺謙の設計による木骨レンガ造りの3階建ての建物で、日本土木会社(現在の大成建設株式会社)により建設されました。後に建物は焼失してしまい、フランク・ロイド・ライト設計による2代目の建物が建設されました。

明治42年(1909)に栄一氏は帝国ホテルの取締役会長を辞任し、後任には大倉喜八郎が就任しました。

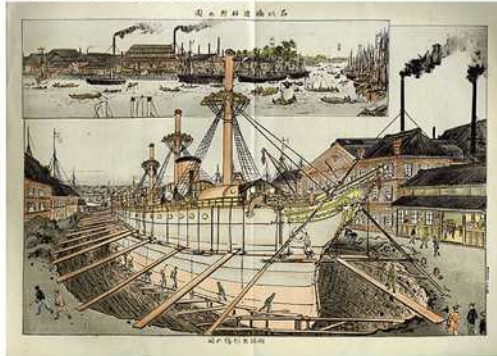
現在の株式会社帝国ホテルになります。

25)東京大日本名勝之内 山下御門内帝国ホテル真景
勝山英三郎 明治24年(1891)

【浅野セメント】

26)中洲附近之景
「新撰東京名所図会 第28編」より
山本昇雲 明治34年(1901)

【石川島造船所】



27)石川嶋造船所の図
「新撰東京名所図会 第31編」より
山本昇雲 明治34年(1901)

【鐘淵紡績】

28)紡績会社側面之図
「新撰東京名所図会 第12編」より
山本昇雲 明治31年(1898)

【養育院】

明治9年5月11日
是日栄一、養育院事務長に任命せられ、引続き
当院事務を主管す。同月二十五日、東京会議所
は其養育院行務を府庁に還納す。
仍つて当院は東京府の経営するところとなり、
同年六月東京養育院と改称す。

『渋沢栄一伝記資料』第24巻 p.50-p.68より

養育院とは東京の生活困窮者を保護する目的で、明
治5年(1872)に設置された施設です。
明治8年(1875)12月に栄一氏が東京会議所の会頭
となると、ガス事業等とともに養育院の運営にもかか
わることとなりました。
明治12年(1879)には院長に就任し、廃止運動の阻
止や、運営が厳しくなると寄付金集めに力を尽くしま
した。晩年多くの企業の役職を退くなか、養育院院長
の任は亡くなる昭和6年(1931)まで務めました。
現在の地方独立行政法人東京都健康長寿医療セン
ターになります。

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」の
ご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・
意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。
次回より約1年間、企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町 4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客様情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及び
サービスのご案内のために使用いたします。》

29)東京養育院の図
「新撰東京名所図会 第47編」より
山本昇雲 明治40年(1907)

【兜町邸宅】

30)東京大日本名勝之内 自荒布橋鐵橋之遠景
勝山英三郎 明治24年(1891)

31)東京真画名所図解 鐵橋遠景
井上安治 明治21~22年(1888~89)

32)憲法発布式大祭之図 江戸橋ヨリ鐵橋遠景
井上安治 明治22年(1889)

【立会略則】

明治4年9月

是より先、大蔵省改正掛の立案に基き栄一編述す
る所の立会略則、福地源一郎訳述する所の会社弁
を府県に頒示す可きを太政官に稟議し、本年六月
十八日其裁可を得たりしが、是月之を刊行す。
栄一会社弁にも叙す。

『渋沢栄一伝記資料』第03巻 p.245-p.255より

栄一氏はヨーロッパを見聞したことを踏まえ、大蔵省
時代に日本に株式会社の説明のための書籍として記
したのが「立会略則(りっかいりやくそく)」になります。
明治4年(1871)9月に大蔵省から刊行された官版の
書籍で、大蔵省の吉田二郎が原案を作成し、栄一氏が
修正をして発行されました。
後に民間会社の設立と育成に尽力する思いが見て取
れます。

33)官版 立会略則
渋沢栄一 明治4年(1871)

34)現今 英名百首
沼尻桂一郎 明治14年(1881)

おもな参考文献

公財) 渋沢栄一記念財団 HP データベース情報
渋沢史料館 各展示会図録
めざせ日本の近代化 ~日本の産業を育てた渋沢栄一~
埼玉県立博物館 平成14年(2002)
日本国有鉄道百年史 第一巻 昭和44年(1969)
東京瓦斯七十年史 昭和31年(1956)
都市紀要33 東京馬車鉄道 平成元年(1989)
東京株式取引所五十年史 昭和3年(1928)
大成建設のあゆみ 昭和44年(1969)
清水建設百七十年史 昭和48年(1973)
明治工業史 化学工業編 昭和5年(1930)